

【令和6年度事業報告書】

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

I. 法人の概要

学校法人 日本リハビリテーション学舎
理事長 山田 千鶴子 (令和4年5月30日～)
所在地 東京都小金井市中町二丁目22番32号
電話 042-384-1030
HPアドレス <https://www.sigg.ac.jp/>

II. 設置する学校

名称 専門学校 社会医学技術学院
学 院 長 浅沼辰志
所在地 東京都小金井市中町二丁目22番32号
校 地 総面積 3346.4 m²
校 舎 延床面積 3510.34 m² (構造) RC一部鉄骨構造 地上3階地下1階
沿 革 1973 東京都新宿区大久保スポーツ館内に理学療法士養成施設 (夜間4年課程) として開設
‘75 東京都渋谷区に移転
‘77 運営母体の法人化 (「財団法人日本リハビリテーション振興会」設立)
‘80 東京都小金井市に校舎移転
専門学校として認可、作業療法学科 (夜間4年課程) 開設
‘83 理学療法学科 (昼間3年課程) 開設
‘99 校舎増築 (新図書室、パソコン教室)
2003 創立30周年
‘07 夜間部理学療法学科・作業療法学科定員を各35名に増員
‘11 昼間部理学療法学科定員70名に増員
‘13 創立40周年
設置母体の称号変更 (「財団法人日本リハビリテーション振興会」から「一般財団法人日本リハビリテーション振興会」に、公益法人制度改革に伴う変更)
‘17 社会医学技術学院奨学金創設 (学院・同窓会との共同事業)
‘18 キャリア支援室を設置
‘19 設置母体の法人組織変更 (「一般財団法人日本リハビリテーション振興会」が、新設された法人「学校法人日本リハビリテーション学舎」に学校教育に関するすべての事業と全財産を譲渡)

‘23 創立 50 周年

作業療法学科昼間部設置認可・指定（2025 年度開設）

Ⅲ. 役員・評議員・教職員の概要

1. 理事会（令和 6 年 4 月 1 日現在）

理事長	山田 千鶴子	（賠償責任保険加入：総支払限度額 5 億円）		
副理事長	浅沼 辰志	（	同	）
専務理事	帯刀 隆之	（	同	）
理事	長田 一雄	（責任限定契約締結）		
理事	小林 達雄	（	同	締結）
理事	新田 國夫	（	同	締結）
理事	宮武 剛	（	同	締結）
監事	大久保 孝彦	（	同	締結）
監事	茅野 祐子	（	同	締結）

2. 評議員会（令和 6 年 4 月 1 日現在）

評議員	浅沼 辰志
評議員	帯刀 隆之
評議員	長田 一雄
評議員	倉持 昇
評議員	武市 裕貴
評議員	伊東 弘泰
評議員	薄井 康紀
評議員	奥野 英子
評議員	小林 達雄
評議員	清宮 眞知子
評議員	西村 和美
評議員	播 彰
評議員	高村 浩
評議員	上野 節子
評議員	中村 伴子

3. 理事会会議記録

（1）第 17 回理事会 令和 6 年 5 月 28 日

議案審議事項

第 1 号	令和 5 年度事業報告及び決算報告について
第 2 号	監事監査報告について
第 3 号	私立学校法改正に伴う 寄附行為の変更について
第 4 号	学則の変更について

- 第5号 運営会議に関する規程の制定について
- 第6号 個人情報保護規程の改正及び個人情報の保護に関する基本方針の制定について
- 第7号 特定個人情報取扱規程の制定及び特定個人情報の取扱いに関する基本方針の制定について
- 第8号 ハラスメント対策委員会規程の改正及びハラスメント対策に関する基本方針の制定について

以上、1号から8号まで承認された。

(2) 第18回理事会 令和7年3月26日

議案審議事項

- 第1号 令和6年度補正予算案について
- 第2号 令和7年度事業計画案について
- 第3号 令和7年度収支予算案について
- 第4号 教員の変更について
- 第5号 就業規則の改訂について
- 第6号 職員人事評価制度実施規程の改訂について
- 第7号 給与規程の改訂について
- 第8号 育児・介護休業規程の改訂について
- 第9号 役員報酬規程の改訂について
- 第10号 役員賠償責任保険の継続加入について

以上、1号から10号まで承認された。

4. 評議員会会議録

(1) 第16回評議員会 令和6年5月28日

議案審議事項

- 第1号 令和5年度事業報告及び決算報告について
- 第2号 監事監査報告について
- 第3号 私立学校法改正に伴う寄附行為の変更について
- 第4号 学則の変更について
- 第5号 運営会議に関する規程の制定について
- 第6号 個人情報保護規程の改正及び個人情報の保護に関する基本方針の制定について
- 第7号 特定個人情報取扱規程の制定及び特定個人情報の取扱いに関する基本方針の制定について
- 第8号 ハラスメント対策委員会規程の改正及びハラスメント対策に関する基本方針の制定について

以上、1号から8号まで承認された。

(2) 第17回評議員会 令和7年3月26日

議案審議事項

- 第1号 令和6年度補正予算案について
- 第2号 令和7年度事業計画案について

- 第3号 令和7年度収支予算案について
- 第4号 教員の変更について
- 第5号 就業規則の改訂について
- 第6号 職員人事評価制度実施規程の改訂について
- 第7号 給与規程の改訂について
- 第8号 育児・介護休業規程の改訂について
- 第9号 役員報酬規程の改訂について

以上、1号から9号まで承認された。

5. 教職員の概要（令和6年4月1日現在）

学 院 長	1 名（常勤）
副学院長	1 名（常勤・専任教員兼務）
キャリア支援室長	1 名（常勤・専任教員兼務）
専任教員	20 名（常勤・副学院長、キャリア支援室長を除く）
兼任教員	24 名（主な非常勤講師）
事務職員	11 名（常勤）
	1 名（非常勤）

IV. 専門学校社会医学技術学院 事業報告

1. 重点課題の実施状況等

中期事業計画（2024～2028年度）に基づき、以下について取り組んだ。

【学院】

- ・学生数の減少傾向に対応するため、6年度は学生募集に関わる複数の施策を展開した。具体的には、1）夜間部受験者のみ対象だったA0入試を昼間部も実施、2）オープンキャンパスの参加者を増やすため、回数や内容を見直し（資料①）、3）高校ガイダンス参加数を前年度より増加（資料②）、4）ホームページおよびInstagram等のSNSを充実させるなどWEB広報を強化（資料②）、5）専任の広報担当者の配置および広報コンサルタントを導入し、1）～5）の迅速化および各データを蓄積・分析し、広報活動の戦略立案につなげた。

以上の結果、令和7年度入学者は、理学療法学科昼間部は定員を上回り、作業療法学科昼間部は前年度を超える入学者が確保できた。一方、理学療法学科夜間部は、社会人を中心とした学生募集を行ったが、減少に歯止めがかかっていない状況である。

- ・令和7年度入試の指定校は、大学13校、高校22校であり、7年度入試では大学から1名、高校から7名が入学した（資料③）。大学との連携では、東京女子体育大学と協定を取り交わした（資料④）。
- ・国家試験の合格率は前年度に続き良い結果が得られた。特に作業療法学科は3年連続100%の合格率を、理学療法学科昼間部も100%、理学療法学科夜間部は93.1%の合格率であった（別紙報告書参照）。

- ・ハラスメント対策窓口として、7名の学生より8件の相談があった。うち2件には、相談者の希望及びハラスメントの疑いがあったため、調査小委員会を立ち上げ調査を行った。
- ・入学時基礎力テストを昨年度同様実施し、「成長する基礎力」育成に資する教育内容検討資料とした（資料⑤）。
- ・リハビリテーション教育評価機構による理学療法学科の第三者評価と、職業教育評価機構による学院全体の第三者評価を受審し、いずれも適格と判定された。
- ・研究事業助成制度に1名申請があり、承認した（成果報告は令和7年度）。

【理学療法学科】

- ・令和6年度入学生が令和5年度に引き続き夜間部・昼間部とも定員割れに陥ったことを受けて、高校訪問等を行う渉外担当者に専任人員を引き続き提供。事務部門の広報担当者と連携を図り、令和7年度夜間部入学生は定員割れしたものの昼間部は定員を充足する結果となった。
- ・国家試験では、国試対策委員会と共に計画的な対策を実施。合格率は、夜間部93.1%、昼間部100%と全国平均89.6%を超える結果を残すことができた。
- ・臨床実習教育では、診療参加型臨床実習が徐々に浸透し複数名の学生受け入れ実習施設が拡大してきている。これにより、実習地確保のうえで宿泊を伴う遠隔地施設を削減することが可能となってきた。
- ・作業療法学科の昼間部移行に伴い、開設準備室、作業療法学科と連携して時間割調整、講師調整、教育環境の整備を実施し、滞りのない学事進行体制を整えた。
- ・教員の勤務時間や内容確認を徹底、残業時間の大幅な減少につなげた。

【作業療法学科】

- ・令和6年度は夜間部の募集を停止し昼間部の募集を開始した。選抜の仕方を根本的に見直し、新しいA0入試のスタイルを実施した。応募者にとっての負担感の軽減、アドミッションポリシーを満たしていることが確認でき、かつ、学業についていけると判断できる学生を選抜できるようにした。入学者20名を確保できたが、定員充足のためにさらに営業活動に注力していく。
- ・夜間部の在学生在が留年することなく進級できた。特に夜間部1年生のフォローを担当中心にきめ細かく行った結果、1名の退学者は出てしまったが、新入生16名は全員進級することができた。
- ・地域に向けた介護職セミナーや一般市民向けの介護講座の企画運営で、小金井市との連携に尽力することができた。
- ・国家試験では在學生は3年連続100%の合格率達成を果たすことができた。スケジュール管理と個別指導・激励に徹した結果である。新年度へと引き継ぎ、低学年からの国家試験に対する意識付けを強化している。

【キャリア支援室】

- ・キャリア教育について、現行カリキュラムの中で本事案に関する科目を抽出し、系統的な科目群を位置付けた。
- ・就学（学生）支援について、既存の「給付型奨学金」を希望する学生と提供施設との仲介を

行った。

- ・卒業生支援として、同窓会の学院側窓口となり、同窓会主催イベントの学内周知や企画実施支援、中期事業計画に基づく同窓会と学院との共催での研修会企画を検討した。また、転職相談や情報提供を実施した。国家試験受験者に対して、学習管理システムを活用し情報提供や模擬試験、過去問の提供、学習相談を行った。
- ・就職活動支援について、「就職の手引き」を作成し、「就職ガイダンス」、「就職活動講演会」、「就職説明会」等、一貫した支援が行えるように最終学年担任と協働した。

【事務局】

- ・専門実践教育訓練給付制度において、新たに理学療法学科夜間部が認定講座として指定された。認定されている理学療法学科昼間部では、令和6年度28名の学生が利用した。
- ・昨年度に引き続き高等教育の修学支援新制度の対象校に認定され、25名の学生が利用した。
- ・アクティブラーニング型授業に対応するため、従来のPC教室をグループワークやディスカッションなどが行いやすいレイアウト、設備を整えた教室に改修した。
- ・学生の福利厚生の実現を目的として、学内に簡易軽食販売システムを導入した。あわせて、2階休憩スペースに新たに給茶機を設置し、学生の生活環境の一層の向上を図った。

2. 今後の取り組みについて

- ・留年、休学、退学について、担任が指導・面談に当たっているが、学生のさまざまな理由から十分な抑制効果が得られているとは言い難い。休学・退学対策を検討していく。
- ・令和8年度入学試験からWEB出願を導入し、自己推薦入試を設けることに伴い、円滑に運営できるよう、万全の準備を進める。
- ・実績のある大学との連携を推進していく。
- ・理学療法学科夜間部では、セカンドキャリアを応援するため昼間働きながら夜学という夜間部の特色を活かした教育内容を引き続き検討する。教育訓練給付による資格取得を昼間部同様、広く周知する。
- ・作業療法学科昼間部の受験者増のため、作業療法の魅力や職業としての将来性をアピールする多様な方策を実施する。
- ・キャリア支援室では、就学支援として、経済的支援制度の情報提供・相談支援を実施する。
- ・同窓会と共同による卒業後教育の実施をはじめとした、具体的な連携の在り方を確立していく。
- ・改訂した人事評価方法を基に、各部門での業務の進行状況の把握と教職員のスキルアップに努める。
- ・事務部門においては、業務の効率化を進め、残業の減少を図る。

3. 学生の状況

①在籍学生数(令和6年5月1日現在:休学者を含む(かっこ内は前年度当初との増減))

	1年	2年	3年	4年	合計	充足率
(夜)理学療法学科	30(-3)	24(-10)	35(0)	30(0)	119(-13)	85%
(夜)作業療法学科	17(-9)	26(+1)	22(+6)	13(-11)	78(-13)	56%
(昼)理学療法学科	65(-4)	67(-7)	67(+4)	—	199(-7)	95%
合 計	112(-16)	117(-16)	124(+10)	43(-11)	396(-33)	81%

②退学者数 令和6年5月2日～令和7年3月31日(カッコ内は前年度)

	1年	2年	3年	4年	合計
(夜)理学療法学科	5 (3)	1 (0)	1 (3)	0 (1)	7 (7)
(夜)作業療法学科	1 (1)	4 (3)	2 (1)	0 (1)	7 (6)
(昼)理学療法学科	8 (6)	3 (1)	0 (0)	—	11 (7)
合 計	14 (10)	8 (4)	3 (4)	0 (2)	25 (20)

※主な退学の理由：進路変更(10名)、経済的理由(2名)、体調不良(2名)等

③休学者数(カッコ内は前後期とも休学の者)

	1年	2年	3年	4年	合計
(夜)理学療法学科	5(1)	1(1)	3(2)	1(0)	10(4)
(夜)作業療法学科	1(0)	3(0)	3(1)	0(0)	7(1)
(昼)理学療法学科	4(1)	6(1)	3(1)	—	13(3)
合 計	10(2)	10(2)	9(4)	1(0)	30(8)

※主な休学の理由：経済的理由(9名)、留年したが当該学期履修済みのため(6名)、病気療養(5名)等

4. 行事等

(1) 入学式 令和6年4月6日(水) 農工大グリーンホールにて開催

(入学者) 理学療法学科 夜間部 (第52期) 23名入学
 作業療法学科 〃 (第45期) 16名入学
 理学療法学科 昼間部 (第42期) 61名入学

(2) 三科合同行事 令和6年5月18日(土) ウォークラリー

(3) 学生健康診断 令和6年5月28日(火)

(4) 体 育 祭 令和6年6月1日(土)

(5) 文 化 祭 令和6年11月3日(日)

(6) 学校説明会等(令和6年4月～令和7年3月、延べ人数、同伴者は除く)

※資料①、別紙報告書参照

学校説明会(実施回数23回・参加者数234名)

体験授業(13回・89名)

入試ワンポイントアドバイス(27回・180名)

授業見学(昼)＋説明会(5回・39名)

夏休み卒業生 SP(1回・11名)

平日卒業生 SP(3回・6名)

ナイトセミナー／平日学校説明会(35回・65名)

作業療法学科 ミニ講座(5回・6名)

PT 学科 A0 入試対策講座(2回・12名)

奨学金説明会(1回・1名)

(7) 令和6年度学生募集（令和6年6月～令和7年3月）

入学試験（AO・社会人・高校推薦・指定校推薦・一般・特別）

理学療法学科 夜間部 応募者合計 24名 入学決定者 19名

理学療法学科 昼間部 " 89名 " 74名

作業療法学科 昼間部 " 25名 " 20名

(8) 理学療法士・作業療法士 国家試験 令和6年2月24日

理学療法学科 夜間部 29名受験 27名合格（合格率 93.1%）

作業療法学科 " 13名 " 13名 "（" 100%）

理学療法学科 昼間部 63名 " 63名 "（" 100%）

全国平均合格率：理学療法士 89.6%、作業療法士 85.8%

（うち新卒者 理学療法士 95.2%、作業療法士 92.5%）

(9) 卒業式 令和7年3月15日（土）

理学療法学科 夜間部 卒業生（第49期） 29名

作業療法学科 " 卒業生（第42期） 13名

理学療法学科 昼間部 卒業生（第40期） 64名

合 計 106名

5. 累計卒業者数（令和7年3月31日現在）

理学療法学科 夜間部 1,463名

作業療法学科 " 1,087名

理学療法学科 昼間部 1,612名

合 計 4,162名

V. 小金井市連携・委託事業 事業報告

- ・小金井市と地域共生社会の実現に向けての連携協定を締結した。連携事項には、社会のつながりを醸成し、個々が抱える問題を解決する「社会的処方」に、理学療法や作業療法等の知見を活用することなどが挙げられている（資料⑥）。
- ・介護予防の普及啓発に寄与することを目的に、小金井市より地域リハビリテーション活動支援事業を受託し、市内の高齢者向け介護予防体操会場へのリハビリテーション専門職の派遣を実施した。

応募者対応委員会 2024 年度活動報告

応募者対応委員会
委員長 小島 肇

応募者対応委員会は、本校に関心のある方々に対して、イベントを企画実施し、その教育内容や学生生活等を理解していただき、入学試験出願へと決断を促す機会を提供することである。2024 年度の活動について、以下に報告する。

1. イベント

1) オープンキャンパス 23 回

目的：入学試験への出願を決断していただくために、学校の沿革、教育内容、学生生活、入学試験について、教職員と学生スタッフで説明すること。

対象：高校生、社会人、保護者

内容：全体説明、各学科の説明、学内ツアー、模擬授業、個別相談、入試相談/助言

時間：半日を 1 クールとして、土日祝日を利用して午前/午後実施

2) ナイトセミナー 51 回（未実施含む）

目的：オープンキャンパスに参加できない方々に学校を理解していただくために、夜間部授業開講時間帯に授業見学や学校の説明を行うこと。

対象：主に社会人

内容：全体説明、授業見学、個別相談、入試相談/助言

時間：90 分

3) 職場見学会 杏雲堂病院 4 回 天本病院 2 回

目的：療法士の仕事を理解していただくために、臨床で働く療法士の現場を見学すること。

対象：高校生、社会人、保護者

内容：オリエンテーション、職場見学、全体で質疑応答

時間：120 分

4) その他

特別企画として、8 月夏休み期間に「スカラシップ講演会」と「卒業生招聘イベント」を実施した。また、夜間部理学療法学科の出願促進のため、ナイトセミナー「卒業生招聘イベント」を 2 回実施した。

2. 参加者について

理学療法学科昼間部志望者は 167 名が参加し、87 名が出願した（出願率 52.1%）。理学療法学科夜間部志望者は 32 名参加し、15 名の出願に留まった（出願率 46.9%）。昼間部へ移行した作業療法学科は 148 名参加、75 名が出願に至った（出願率 50.7%）。昨年度の全体の出願率は 30% 台であったことを勘案すると、各学科とも出願率が改善した。

高校と社会人に分けて分析してみると、高校 3 年生の出願率は 75%、社会人のそれは 50% であった。社会人うち男性に限ると 51.4% であったが、女性は 47.1% であった。

3. 特記事項

2024 年度は、JMA 一般社団法人日本能率協会 学校経営支援センターからコンサルテーションを期初 3 か月間受け、ご指導を頂いた。参加者へのホスピタリティ向上のため、「学生スタッフマニュアル」の作成や駅や玄関でのお出迎え、タイムスケジュールの注意点など、様々な角度からイベントの質改善に取り組んだ。

また、専任の広報担当者が配置され、ホームページや SNS の閲覧状況など質の高いデータが提供されるようになり、イベントの企画実施に関して重要な示唆が得られた。委員会活動に大きな変化をもたらしたといえる。

4. 次年度の運営方針

2025 年度は募集に関する業務が整理され、一体感のある活動ができるものと思う。広報の充実によりイベント参加者が昨年度より増えることが期待でき、ここに参加して下さった方々を一人でも多く出願に導くことが、本委員会のミッションである。さらなるホスピタリティの質向上を、学生を含めたスタッフ全員で着実に進めること、企画が参加者の思いに沿っているのか常に振り返ることを心がけていきたい。2025 年度はオープンキャンパスを 24 回予定している。ふくろう祭が一般公開となれば、ブースを開くことも検討している。また、ナイトセミナーは夜間部強化のため、通年で週 2 回実施していきたい。これらを通して、少なくとも各学科定員の 2 倍の参加者を集め、引き続き出願率 50%を維持することを通して全学科定員確保を目指していきたい。

以上

2024年度国家試験報告と今後の対策

国家試験対策特設委員会
委員長 沼尾 拓

1. 概要

昨年度作成した「社医学国試験対策マニュアル」をもとに、近年の傾向である過去問類似問題を多用する傾向に即して、各学科とも過去問に重点を置いて勉強を進めた。

現役の結果は2学科で100%、1学科についても2名のみを残して合格となった。年度当初に計画した国試験対策をベースに個別学生毎に修正しつつ取り組むことができた効果であると分析している。

2. 2024(令和6)年度 第60回国家試験の結果

	第60回 (R6)	第59回 (R5)	第58回 (R4)
夜間部 PT	29 名受験 27 名合格 93.1%	29 名受験 29 名合格 100.0%	35 名受験 34 名合格 97.1%
昼間部 PT	63 名受験 63 名合格 100.0%	60 名受験 59 名合格 98.3%	66 名受験 64 名合格 97.0%
既卒 PT	6 名受験 2 名合格 33.3%	11-12?名受験 6 名合格 (夜 4/5-6 名 70-80%) (昼 2/6?名 33.3?%) 50.0~54.5%	22 名受験 11 名合格 (夜 3/7 名 42.9%) (昼 8/15 名 53.3%) 50.0%
PT 全国平均	89.6% (新卒 95.2) (既卒 31.2)	89.2% (新卒 95.2) (既卒 33.4)	87.4% (新卒 94.9) (既卒 49.0)
O T	13 名受験 13 名合格 100.0%	23 名受験 23 名合格 100.0%	19 名受験 19 名合格 100%
既卒 OT	5 名受験 0 名合格 0.0%	4-6?名受験 1 名合格 16.7~25.0%	7 名受験 1 名合格 14.3%
OT 全国平均	85.8% (新卒 92.5) (既卒 37.8)	84.1% (新卒 91.3) (既卒 33.3)	83.8% (新卒 91.3) (既卒 44.3)

3. 社医学版国試対策プログラム（下線は重点/ポイント項目）

- 1) 担任による国試対策マネジメント
 - ① 最終学年年度開始前の早期からの国試ガイダンス
 - ② 年間・とくに週間学習計画の提示と学生との共有
- 2) 学生個別の指導教員の配置とその担任マネジメント
- 3) 模試による反復学習（学内模試、業者有償模試、農工大1日模試、公開模試）
- 4) 学生主体の勉強会のマネジメント
 - ① グループワーク（グループ構成に担任による工夫）
 - ② 分野別勉強会（各学科とも担当教員による要点の整理、14回シリーズ）
 - ③ 学習缶詰め部屋（教員室前の大会議室）（模試下位層の選抜者を集めた集中学習）
- 5) 自己学習用「模試セットとスマホ利用問題ドリル（リハドリル® iPEC）」
- 6) 有償アプリ利用による国試過去問の編集と教員室前配布教材

4. 第60回国家試験について

第58回から続く傾向は変わらず、理学療法士・作業療法士国家試験ともに、過去類似問題の多用が特徴として見られた。

5. 2024年度取り組み状況とまとめ

昨年総括された「社医学国家試験対策マニュアル」を年度当初に共有し実施してきた。

最も中心的な対策としてグループワークの運用について注力してきた。半数程度のグループでは何らかの教えあいが行われていたが、相性やモチベーション、家庭の状況などによって分解してしまうグループも見受けられた。そのような中でもグループを超えた教えあいやピア学習で進められている例も散見された。引き続き1学年早期から学生同士で教え教わり合う学習形態を展開・発展させることが重要と位置付けている。

また、学生個別対策の充実も課題として挙げられる。今期一部の試みに効果を認められたことも踏まえ、また外部補助教員の活用なども含め重点項目としていく。最低迷者は学習能力以外に様々な要因が関係するため、来年度はマンツーマンの担当教員も設定し毎日のペースメーカー&相談役として個別対応を機能させることも有用と考えられる。また、学習面に対してはある程度マニュアルに沿った進め方を教員に提示して一定レベル以上のサポートを保証する必要がある。

昨年の一名の不合格者同様、今年度も現役で不合格となった夜間部理学療法学科の二名に関しては精神面に問題を抱えている学生であった。臨床心理士と相談しながらの対応であったが、追い込んだ勉強ができず限界があった。

既卒生合格者は2名となっているが、その中で把握できている一名は、能力はあったが昨年度は自己都合により受験しなかった学生だった。ある程度意欲がある浪人生に関しては毎年150 - 160程度の点数で不合格となっているため、近年の傾向を考慮し過去問を集中的に解かせることで合格まで引き上げる直前対応もカギとなる。

以上